

1. 初期支援 (はじめのかかわり)	メンバー	13人
--------------------	------	-----

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	5人	4人	4人	0人	13人

前回の改善計画	<ul style="list-style-type: none"> 初期支援で得た情報を利用者カードとして作成し、職員間で共有できるようにする。(継続)
前回の改善計画に対する取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> 初期支援において情報の共有や対応は協力出来たが、カード作成には至らなかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	8	5	0	0	13
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	4	7	2	0	13
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	7	6	0	0	13
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	4	4	3	2	13

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none"> 事前情報や体験利用時の様子をまとめ、ミーティングで伝え合って本人様の事を共有出来た。 来所時、訪問時など本人様が落ち着ける席の配置や環境設定について工夫している。 女性利用者がお化粧するために室内環境を整える事が出来た。 	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none"> 職員によっては、時間帯や関わりの少なさから初期支援の重要性は理解出来ていても、関わっていないと思われている。 	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
<ul style="list-style-type: none"> 利用者カードを各利用者担当が作成し、職員間で情報の共有を図る。 時間帯に自分達(職員)が十分関わっている事を実感できるようにする。 	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和3年 10月22日 (10:30~12:30)

2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)

メンバー 13人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	4人	5人	3人	1人	13人

前回の改善計画
・「～したい」の実現を在宅での生活を基本として捉え、実現に向けて利用者様との関りを深めていく。

前回の改善計画に対する取組み結果
・「～したい」の実現までには至らない点もあったが、自宅での生活を継続するための日々の関わり (足の運動やマッサージなど) は継続してみんなで取り組めた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか?	4	4	2	3	13
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	4	5	2	2	13
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	3	6	2	2	13
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	4	5	1	3	13

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・以前と比べて、利用者との関係に変化がみられ、「～したい」と言ってもらいやすい関係が出来てきた。
・介助する場面でマンツーマンの時間を大切にして、本人の思い・本音を聞き出せた事例もあり、対応にいかす事が出来た。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・皆で話し合い取り組んでいるが、意識が薄れてしまうと継続が難しい事もある。
・業務や時間の使い方それを理由に取り組みないと思ってしまった事がある。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)
・利用者ひとりひとりの「～したい」を探りながら、自宅での生活の継続を基本に捉えて関りを継続する。
・業務や時間の使い方について業務内容・役割分担を見直し、改善を図る。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和3年 10月22日 (10:30~12:30)

3. 日常生活の支援

メンバー 13人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	6人	5人	1人	1人	13人

前回の改善計画	・環境作りや利用者様の状態変化への対応について、今回できなかった点を振り返り継続して取り組む。
前回の改善計画に対する取組み結果	・利用者個々の環境作りについては、継続して写真などに残し対応出来た。 ・利用者の状態変化について、職員間で申し送り等の伝達もれを防ぐ対応が出来た。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?	2	5	2	4	13
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	8	5	0	0	13
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?	4	7	0	2	13
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	6	6	0	1	13
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?	6	5	1	1	13

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・入浴介助中に発した利用者の本音を(午睡について気兼ねしている事)聞き出せた事を職員間で共有してその日以降、さりげなくお部屋に案内出来るようになった。 ・女性利用者がお化粧する際に、落ち着く環境の設定が出来た。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・自宅で過ごす時間より事業所(通い・泊り)で過ごす時間が多い(家族の都合により)方もいるため、以前の暮らし方(自宅での生活)が捉えきれていない。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
・利用者個々の過ごし方や環境への配慮について、担当職員を中心に意見を出し合い継続して取り組む。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和3年10月22日 (10:30~12:30)

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 13人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	0人	6人	3人	4人	13人

前回の改善計画
・今までの生活の中で、活用した社会資源だけにとらわれず、自分達の視点を切り替え、新しい地域資源の発見や開拓に努める。

前回の改善計画に対する取組み結果
・新しい地域資源の発見や開拓にはいたらなかった。
・職員間での話し合いを通して少しずつであるが、視点の切り替えが出来た。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?	1	8	0	4	13
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?	1	9	0	3	13
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?	3	6	1	3	13
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?	1	4	4	4	13

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・職員間で話し合う事で自分達の視点を切り替える事は出来た。
・本人の事を「知ろう」と努力し、家族や本人との関りの中で理解する事が出来ている。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・新しい地域資源の発見や開発にはいたらなかった。
・職員の中には地域資源という言葉の理解についても認識のずれがあった。(すり合わせの必要あり)

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)
・特定の地域(住んでいる場所、近隣住民との関係)にこだわらない利用者・家族も複数いるため視点を換え、あったかの場所を提供し資源のとなる取り組みを考える。
→近隣住民、ぽっかぽか、利用者、家族が集うことが出来るキッチンカーや移動スーパーへ場所を提供しそれを新しい資源として活用する。(コロナ禍により、外へ出る機会が減少していることを踏まえ、事業所内環境の向上を目指す)

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和3年 10月22日 (10:30~12:30)

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 13人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	3人	9人	0人	1人	13人

前回の改善計画	・利用者様の日々の状態変化について、情報の共有や伝達の工夫をする事で様々な働き方の職員であっても不足なく関わられるようにする。
前回の改善計画に対する取組み結果	・口頭伝達を中心に連絡ノート・メール・動画などを活用し情報の漏れがなく伝える工夫は出来た。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	2	8	2	1	13
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	9	3	0	1	13
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	6	6	0	1	13
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	8	4	0	1	13

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状態合わせた柔軟な支援は出来ている。 ・時期は限定的であったが（コロナの影響で）継続して地域の美容室の来所で利用者の散髪は出来た。 ・お一人であるが、地域の理容室に出かけ続ける事が出来ている。 	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での影響を受け地域資源を使っでの支援はいつもより減少した。 ・職員によっては、地域資源についての理解が乏しい。 	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングなどで利用者や来所者が事業所にとって地域資源とは何か？職員間で意見交換する機会を増やす。 	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和3年10月22日(10:30~12:30)

6. 連携・協働

メンバー 13人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	5人	5人	2人	1人	13人

前回の改善計画	・コロナ禍で地域の方々が、事業所に訪れにくい状況が続くことが考えられるため、情報発信の意義を職員間で理解し、取り組みや関わりを発信し続ける。
前回の改善計画に対する取組み結果	・コロナ禍で事業所に来て頂けない事が続いたので、情報発信の意義を理解した上でブログや広報誌などで取り組むことが出来た。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	その他のサービス機関(医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所)との会議を行っていますか?	3	4	2	4	13
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか?	2	2	3	6	13
③	地域の各種機関・団体(自治会、町内会、婦人会、消防団等)の活動やイベントに参加していますか?	1	1	2	9	13
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか?	0	2	2	9	13

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・CMや管理者が中心とはなっているが、他のサービス提供機関とは少人数であっても会議に参加し、連携をはかるよう努めた。 ・行事や、自分達の日々の関わりをタイムリーにブログで発信することが出来ている。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・コロナ禍の影響が前年度よりも強く、積極的には行事が行えず、外出行事への参加を自粛したため、地域への活動参加は出来ていない。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
・コロナ禍による影響を考慮しつつ、前年度取り組めなかった行事参加や事業所のイベントについても企画、実施する。 ・地域での会議、行事に参加したCMや管理者が情報を伝達し共有を図ることで、連携や協働についても職員が考える機会を持つようにする。(参加が難しい職員への周知)	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和3年10月22日 (10:30~12:30)

7. 運営

メンバー 13人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	4人	5人	2人	2人	13人

前回の改善計画	<ul style="list-style-type: none"> 今後もインフルエンザやコロナウィルスの対策は取りながら、「できない」と捉えるのではなく、工夫しながら取り組んでいく。 ※ 外食企画→テイクアウト 交流行事→感染予防対策を徹底した上でのふれ合い方の工夫
前回の改善計画に対する取組み結果	<ul style="list-style-type: none"> 利用者のご希望に添えるよう本人や家族の意見を取り入れテイクアウトや室内で取り組める企画を立案し、実施することが出来た。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができていますか?	1	8	1	3	13
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	3	6	1	3	13
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	2	6	2	3	13
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?	1	3	6	3	13

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none"> 家族や本人の意見を日中、夜間などの過ごし方に取り入れ、対応する事が出来ている。 誕生日や季節行事についても、工夫しながら実施出来た。 	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
<ul style="list-style-type: none"> 地域と積極的に関わる事を自粛していたため、地域との協働した取組みの実施はできなかった。 	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
<ul style="list-style-type: none"> 感染対策は継続しておこないながら、利用者を中心として家族、地域との行事企画、実施に取り組み、継続して情報発信に努める。 	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和3年10月22日(10:30～12:30)

8. 質を向上するための取組み

メンバー 13人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	9人	3人	0人	1人	13人

前回の改善計画	・ミーティングでの伝達研修の方法を(参加できない職員への)を別の手段で学べるようにする。 ※ 動画や音声、レジメの活用
前回の改善計画に対する取組み結果	・様々な働き方の職員が参加しやすいように、ミーティングの時間を変更した事で参加者も増え伝達研修で学ぶ機会が増えた。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	6	5	2	0	13
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	4	5	1	3	13
③	地域連絡会に参加していますか	0	6	1	6	13
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	6	3	1	3	13

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・コロナ禍であってもオンライン研修に参加し、スキルアップに努めた。 ・感染対策は取りながら、内部研修も例年通り取り組むことが出来た。	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・地域での行事・研修会については、延期や中止なども多く積極的には参加出来なかった。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
・職員の就業形態に関わらず、リスクマネジメントの視点から介護に関わる職員は、ヒヤリハット報告書の提出するように再研修する。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和3年10月22日(10:30~12:30)

9. 人権・プライバシー

メンバー 13人

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	前回の課題について取り組めましたか?	8人	5人	0人	0人	13人

前回の改善計画	・今回、取り組んだプライバシーへの配慮について場所だけでなく、ケアの場面においても見直しをし工夫していく。
前回の改善計画に対する取組み結果	・新規利用者の支援において泊りの環境として本人の排泄状況に合わせた配慮が出来た。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計(総人数)
①	身体拘束をしていない	11	2	0	0	13
②	虐待は行われていない	11	2	0	0	13
③	プライバシーが守られている	9	4	0	0	13
④	必要な方に成年後見制度を活用している	9	1	1	1	13
⑤	適正な個人情報の管理ができている	10	3	0	0	13

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
・全職員が、身体拘束や虐待について意識しながら取り組むことが出来た。 (意識した上で不適切なケアとならないように確認している)	

できていない点	200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
・成年後見制度について複数の利用者が活用しているし、ミーティングでも話合っているが、各々の意識が薄く、評価の際に伝わっていない事がわかった。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
・利用者への対応が不適切なケアにならないよう、引き続き意識しながら取り組む。	

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人砥部寿会	代表者	菅原哲雄	法人・事業所の特徴	「利用者一人ひとりの思い、家族の希望に寄り添います」「人と人とがつながり、共に支えあい、共に笑い合える暮らしの輪を広げます」「住み慣れた地域でのその人らしい暮らしを支えます」「利用者の暮らしを支える全ての人々の思いを大切にします」をモットーに、ご家族や関係機関と連携して、自宅で生活する利用者様の24時間365日を捉えた個別ケアの提供を目指している。
事業所名	小規模多機能ホーム あったか	管理者	西岡佳代		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	4人	1人	1人	人	1人	3人	人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・利用者様と家族様と一緒に関わりの中で配慮の必要な場面、方法について確認しながら取り組む。	・利用者の状態変化について、職員間で申し送り等の伝達もれを防ぐ対応が出来た。 ・介助する場面でマンツーマンの時間を大切に、本人の思いや本音を聞き出せた事例もありそれを元に職員間で共有し対応にいかすことが出来た。	・以前に比べて職員さんの意識の差を感じた。(外部) ・勤続年数や経験の差も影響しているように感じた。(外部)	・職員の勤務形態に関わらず、利用者様の対応や安全に関して、リスクマネジメントの視点からヒヤリハット報告書の提出出来るよう再研修する。
B. 事業所のしつらえ・環境	・環境作りや利用者様の状態変化への対応について今回できなかった点を振り返り継続して取り組む。	・利用者個々の環境作りについては、継続して写真などに残し対応出来た。	・女性利用者の身だしなみ(浴後のお化粧)について、落ち着く環境の提案と実施によって新規利用者の初期支援の対応につながったのではないかと。	・利用者個々の過ごし方や環境への配慮について、担当職員を中心に意見を出し合い継続して取り組む。
C. 事業所と地域のかかわり	・コロナ禍で地域の方が事業所を訪れにくい状況が続く事が考えられるため、情報発信の意義を職員間で理解し、取り組みや関りを発信し続ける。	・コロナ禍で事業所に来て頂けない事が続いたので、情報発信の意義を理解した上でブログや広報誌など皆で取り組むことが出来た。	・コロナ禍の影響が前年度よりも強く、積極的に行事が行えず、外出行事への参加も自粛する時期が多かったため、地域への活動参加は出来なかった。	・コロナ禍による影響を考慮しつつ、前年度取り組みだった行事参加や事業所のイベントについても企画、実施する。 ・地域での会議、行事に参加したCMや管理者が情報を伝達し共有を図ることで連携や協働についても職員が考える機会を持つようにする。(参加が難しい職員への周知)
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取り組み	・利用者様の今までの生活の中で活用した社会資源だけにとらわれず、自分たちの視点も切り替えて(コロナ禍であっても)新しい地域資源の発見や開発に努める。	・新しい地域資源の発見や開拓にはいたらなかった。職員間での話し合いを通して少しずつではあるが、視点の切り替えは出来たのではないかと。	・職員の中でも地域資源という言葉の理解についても認識のずれがあった。(すり合わせる必要性を感じた) ・コロナ禍で思うように取り組めない中で色々と工夫されているのがわかった。(外部)	・特定の地域(住んでいる場所、近隣住民との関係)にこだわらない利用者・家族も複数いるため視点を換え、あったかの場所を提供し資源となる取り組みを考える。 →近隣住民、ぽっかぽか、利用者、家族が集うことが出来るキッチンカーや移動スーパーへ場所を提供しそれを新しい資源として活用する。(コロナ禍により、外へ出る機会が減少していることを踏まえ、事業所内環境の向上を目指す)
E. 運営推進会議を活かした取り組み	・書面開催も含め、地域の方や運営推進会議の参加者にもあったか広場(小規模)の取り組みを広める情報発信を継続する。	・ぽっかぽか通信のコラムは継続出来ている。 ・ブログ発信については、コロナ禍であるからこそ意識してタイムリーに発信出来た。	・外部評価において、書面での報告が多かったため、質問項目等“わからない”という回答が多かった。 ・項目や内容について、管理者の説明が不足していたのではないかと。	・書面開催も含め、地域の方や運営推進会議の参加者にもあったか広場(小規模)の取り組みを広める情報発信を継続する。 ※コロナウィルスの状況を考え、再度継続とする。
F. 事業所の防災・災害対策	・コロナ禍での災害発生時の対応も含め、家族様や地域の方との協力体制を強化する。(継続)	・避難訓練の際、地域の団体と近隣事業所の職員の参加を頂いた。	・外部アンケート結果では、全員の方に災害時、事業所は頼りになるというご意見を頂くことが出来た。	・事業所の災害計画(コロナウィルスについてBCP計画)を職員間で共有し災害発生時(感染症の際も)に備える。

